

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)

セッション討議内容の記録

セッション名：都市間旅客交通に固有の調査方法・分析方法の開発	
日付： 6月 6日 (金)曜日，セッション時間： 9:00 ~ 10:00	
オーガナイザー・司会者名(所属)：塚井 誠人 (広島大学)	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集計データから可能な内容以上の分析を，無理に行っている印象を受ける．</li> <li>・ アクセスやイグレス交通の所要時間や運賃（購入券種）に関する正確な情報が公開されることが望ましい．</li> <li>・ アメリカでは，航空動態に関する情報収集と提供は政府が主導して行っている．日本でも航空キャリア側に情報提供を促す仕組みが必要ではないか？</li> <li>・ 個人情報を登録した利用者に，その利用者が必要とする欠航情報をピンポイントで流すサービスを検討したい．その可能性を探るため，集計データからの欠航予測が可能かどうかの検討を（５５）で行っている．</li> </ul>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属)：( 5 4 ) 井上真一 (広島大学)</p> <p>特になし</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属)：( 5 5 ) 木村祐介 (東北大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICA 分析時のデータでは，欠航便は 180 分遅れとして取り扱う．</li> <li>・ 利用者への欠航情報の提供方法は，どのような方法が考えられるか？ アクセス鉄道駅への掲示や，携帯電話を通じたドライバーへの情報提供が考えられる．</li> <li>・ チケットの券種によっては，事前に情報を流しても運航便を変更できない．券種によって効果が異なることを考慮すべきでは？</li> </ul>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属)：( 5 6 ) 山下良久 (株企画開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスロケーションシステムによって収集した実所要時間は，遅延によって大きく変動することもあるが，平均的には表定所要時間に一致している．</li> <li>・ 国際交通旅客のアクセスバスの分担率の高い理由は，鉄道に旅行荷物が持ち込みにくいからではないか？</li> <li>・ 所要時間のみに着目して分析しているが，鉄道とバスの間の運賃差が交通機関分担率に影響しているのではないか？</li> </ul>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属)：</p>